

明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 第3回 地域活性化検討専門部会  
議事要旨

- 1 開催日時：平成28年2月5日（金）午後1時30分～午後3時00分
- 2 開催場所：明治大学黒川農場 1階 会議室
- 3 出席者：[座長]藤原教授  
[専門部会委員] 熊澤(正宣)委員、熊澤(明)委員、市川委員、木田委員、  
久延委員、古山委員、高橋委員  
(欠席) 横山委員、坂本委員、島野委員、山口委員、藤原委員  
(代理) 安藤委員(島野委員の代理)、岡村委員(藤原委員の代理)  
[事務局] 川崎市麻生区役所企画課 井上課長、白石担当係長、山中担当係長  
コンサルタント((株)URリンケージ 正司主幹、遠藤副課長)

4 議 事：

《主な意見》

(1) 今年度の取り組みに関する中間報告

- ・地域活性化検討専門部会は、非常に取り組み項目が多い。結果を早く出したいためにいろいろな取り組みを実施しているのではないかというイメージがある。全体的にもう少し準備期間をとり、余裕をもたせたい。今年度初めて実施する取り組みが多かったということもあるが、参加者数が少ない印象があるので、もう少し参加募集の告知・PR(周知)の期間や周知方法を検討する必要がある。また、取り組みを毎年継続して実施することにより、口コミなどで少しずつ認知されていき、参加者の増加につながると思う。

①地-1サインの検討・試行、地-2散策マップの検討・試行について

- ・サインやパンフレットの文字が小さく読みづらかった。作品解説や注意喚起のサインは大きい空間の中にポツンと小さいものがあるので、もう少し目立ち、インパクトを与えるような文字の大きさにしたほうがよい。
- ・和光大学のご協力のおかげで、パンフレットも品位の高いものができたのではないと思う。

②地-3 取り組み紹介とイベントPRについて

- ・ホームページの閲覧状況はわからないのか。
- ・アクセス数自体は後で調べればわかると思う。農と環境を活かしたまちづくりのホームページは、今年度は少しリニューアルし、掲載について見直しをした。(事務局)
- ・最近スマートフォンが普及しているため、スマホに対応したホームページにしたほうがよいのではないか。
- ・市のホームページとリンクを貼るなど、関係機関が相互リンクを検討したい。

③地-4グリーンツーリズム、地-5<菜の花プロジェクト>スイーツレシピづくりの実施について

- ・トマトとブルーベリーの収穫体験は若い女性を対象とし、ターゲットを限定した。今後とも大学として、こういった取り組みに協力していきたい。明治大学黒川農場では7月の半ば頃の農場実習が終了後から8月1日の夏季の集中実習までの間に開催していただけると夏野菜等がたくさんあるので、参加者にたくさん提供することができる。
- ・収穫体験は事前に栽培しておかないといけないので、思いつきではできない。これは、次年度の計画のときに検討していきたいと思う。
- ・菜の花はきれいで目立つため、関心を持つ方が多くもっと拡大してはどうかというご意見もあるが、人手が足りない状況。収穫した菜の花の種を選別する場所、ある程度広くて屋根がある場所が必要になるのだが、場所も確保できていない。今までの搾油は福島で行っていたので輸送コストがかかっていた。今後は近郊で搾油できる場所を探したいので、何か情報があれば教えていただきたい。(事務局)

#### ④地-6 里地里山の新たな魅力づくり（里山アート制作と展示）について

- ・今回は準備期間が短く、急遽、地元農業者に農地を借りるお願いをしたので、もっと事前に設置場所などが決まっていれば、他の場所も地元農業者へ相談することができたと思う。今後、作品の設置場所をもっと広げるのであれば、もっと事前に予定を立てる必要がある。
- ・広い場所に対して作品がこじんまりしていた。作品が大きければ制作時間もかかるだろうから、もっと準備期間をとったほうが良い。次回はもっと大きな作品を期待している。田んぼアートなどはどうか。協力するほうも大変だと思うが、あれぐらいインパクトのある作品が良い。
- ・竹ドームの作品のように、子どもたちと一緒に作品を作るというのもすごく良いと思う。
- ・最近の子供は指先でばかり遊ぶものが多いので、竹行燈づくりや竹ドームづくりのようなイベントを実施するのは良いと思う。

### (2) 実施計画と次年度の取り組みについて

#### ①炭焼き体験・シンポジウムについて

- ・「炭焼き体験・シンポジウム」について補足する。これは当初、今年度を実施する予定だったが、次年度に実施することになった。これは軽トラ2台分の竹を用意し、実際に竹炭を焼いて実演する。短時間で焼くため、出来上がりとしては消し炭のようなものになる。一旦全部燃焼して上から水をかけて炭をつくる。正式なやり方で密閉式の窯で炭焼きを行うと2日間ほどかかってしまう。50人程度参加者を集め、少し大がかりなシンポジウムの開催を考えている。黒川地域では、竹で困っている方が多いと思うので、うまくいけば、竹の有効活用手段としてインパクトがあると思う。

#### ②グリーンツーリズムについて

- ・グリーンツーリズムは、秋にさつまいもや落花生などの収穫があるため、秋にイベントを実施しやすい。次年度は9月に炭焼き体験・シンポジウムを予定しており、秋にいろいろイベントが重なってしまう。(事務局)

- ・秋に取り組みが集中することが悪いというわけではなく、取り組みが集中しているため、準備がしづらいのではないかと、ということだ。時期をずらすか、準備期間を長くにとって、円滑に行うか、やり方を工夫する必要がある。
- ・じゃがいもだと2月の終わりから3月に種イモを植えて5月～6月に収穫する。そうすると3月には作付けを実施しないといけないため、今からではまた、準備期間が足りなくなってしまう。実施するなら、次年度が良いと思う。
- ・また、「秋じゃが」というものもあるが8月末に植えて、秋に収穫になるので、これも秋のイベントに重なってしまう。
- ・じゃがいもの収穫体験は、農家の方に畑を貸してもらい、その分は全部買い取るという話をすれば、植え付けは農家の方に指導をお願いして、イベント参加者が作付けをして、収穫までの管理は農家さんが管理してくれるのではないかと思うので、一度地元の農家の方に相談してみてもどうか。

### ③里山景観づくりについて

- ・黒川緑地管理協議会が黒川海道特別緑地保全地区を管理していて、のらぼう菜と蓮華の種をまいたと言っていた。(事務局)
- ・花が一面に咲けば、景観としての魅力が向上し、そこを散策する人は増えると思う。

### ④小田急電鉄との連携について

- ・平成27年度の取り組みで、黒川駅前の小田急電鉄の土地にサインの総合案内を設置したり、駅構内に里山アートのチラシを置いてもらうなど、いろいろ協力していただいた。今年度は、行政の各担当者がイベントや取り組みごとに小田急電鉄に相談していたが、次年度は、関係者が集まって相談する機会を作りたい。
- ・小田急電鉄の支援(協力体制)は非常に重要な話だと思う。PR媒体としても非常に強いので、大学も含めて連携を検討する必要がある。

## (3) まとめ

- ・この専門部会は、いろいろ多岐にわたる取り組みを実施しているが、地域を活性化することが最大の目的であるので、いろいろな主体と居力・連携を図りながら進めていく必要がある。他の専門部会とも協力して進めていきたいと思っている。特に里地里山保全利活用専門部会で竹行燈づくりを実施しているが、こちらのほうも協力して地域活性化に結び付けたい。竹に困っているのだから、それをいろいろなカタチで活用していければと思う。

## (4) 今後の予定について

- ・地域活性化検討専門部会は、本日(2月5日)開催した。今後は、2月8日に第3回里地里山保全利活用専門部会、2月15日に第3回農産物等研究専門部会が開催される。3月24日に第3回黒川地域連携協議会が開催され、3部会で協議した内容、今年度の取り組みの報告と実施計画について承認していただく予定になっている。また、次年度の専門部会については、時期が近づいたらご案内させていただく。(事務局)

以上